



大阪対ガン協会報

2010年4月 発行

発行 財団法人 大阪対ガン協会 〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞社内
TEL 06-6201-8029 FAX 06-6201-8615 E-mail : office@osakacancer.jp

ガン研究助成奨励金を贈呈

— 基礎・臨床・疫学・看護等4部門の23人に —



大阪対ガン協会（会長＝今岡真義・N T T西日本大阪病院長）は3月18日、大阪市北区中之島の朝日新聞ビル会議室で平成21年度ガン研究助成奨励金の贈呈式を行い、大阪府立成人病センター消化器外科診療主任の後藤邦仁さん（38）ら23人に、賞状と奨励金30万円、計690万円を贈った＝写真左。

ガン研究助成奨励金は、がんの予防と治療、研究に従事している個人またはグループの研究を助成・奨励するもので、今回で50回目。「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の計4分野から、若手育成を重点に、満40歳までの研究者、医療従事者を選定、贈っている。

選考委員は今岡会長が委員長を務め、「基礎」9人、「臨床と疫学」8人、「看護等」4人の計21人。受賞者は、今回で延べ1,589人、総額3億6,880万円となった。今岡会長は「奨励金の資金は対がん事業を支えて下さる協会の賛助会員や篤志家、企業らからの寄付金で支えられています。厳しい経済情勢の中で寄付して頂いた皆さんの、こうした趣旨を十分に理解され、がん征圧をめざしていっそう精進され、飛躍されることを期待します」と話した＝写真右。

受賞者を代表して、臨床の部で2度目の受賞となった後藤邦仁さんが「私は『インドシアニングリーン（ICG）を用いた肝細胞癌に対する光線温熱療法の新規開発』という研究で受賞しました。肝細胞癌は、非常に再発しやすい

平成21年度 ガン研究助成奨励金贈呈式
財団法人 大阪対ガン協会



癌で、手術で切除できた場合でも、術後5年以内に約7割の患者さんが再発します。特に2年以内に早期再発する場合には手術の段階で微少な病変が潜在していることが想定され、術前・術中における微小病変の検出感度をより一層向上させる必要があります。これまで、術前に投与したICGが肝細胞癌に取り込まれ、赤外観察カメラシステムで検出できることを報告し、2年前のガン研究助成奨励金をいただきました。この方法で術中に主腫瘍以外の微小癌や前癌病変も同時に摘出できる場合があります。ただし微小病変が散在している場合には手術だけで根治させることが困難です。そこで今回、ICGの光増感作用を利用し、近赤外線レーザーを照射することで肝細胞癌の治療を行う光線温熱療法の研究に着手しました。この方法により非がん組織への悪影響を与えず、微小病変のみを死滅させることができれば、まさに理想的な癌治療法となります。まだまだ臨床応用までにはいくつものハードルがありますが、今回の受賞を励みに努力を惜しまず研究を続けて行きます」と、謝辞と決意を話した＝写真左。（受賞者は2～3ページに掲載）



受賞者のみなさん(大阪市北区中之島の朝日新聞ビル会議室で)

受賞者(敬称略)

【基礎の部】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
稲元 輝生	36	大阪医科大学 泌尿生殖・発達医学講座 助教	小胞体ストレス促進を利用した腎癌根絶の試み	1
大坪 和明	38	大阪大学 産業科学研究所 疾患糖鎖学寄附研究部門 准教授	糖鎖抗原シアリルTnのがん転移促進機構の解明	1
久木田洋児	37	大阪府立成人病センター 研究所研究員	がん研究に向けた日本人ゲノム多様性情報基盤の構築	1
鳥羽 栞	35	大阪市立大学大学院 医学研究科 細胞機能制御学 助教	染色体分配機構の破綻と発がん：細胞質ダイニンの制御機構の解明	1
西岡 優	37	大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 教務補佐員	新しい分子生物学的診断法 OSNA (one-step nucleic acid amplification) 法を用いた微量残存癌細胞の意義の検討	1
藤田 敏次	33	大阪大学 微生物病研究所 助教	配列特異的酵素活性相補法を用いた癌の根治法の開発	1
森脇 健太	28	大阪大学大学院 医学系研究科 大学院博士後期課程	糖鎖による腫瘍免疫のモジュレーション	1
劉 勇	32	京都大学 原子炉実験所 助教	血管新生阻害剤による腫瘍内硼素化合物のミクロ分布の改善に関する研究	1

【 臨床の部 】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
池田 直廉	35	大阪医科大学脳神経外科 助教	神経膠腫幹細胞に対する5ALAを用いた光線力学的治療による治療抵抗性克服の研究	1
石飛 真人	39	大阪府立成人病センター 乳腺内分泌外科 診療主任	乳癌患者における乳房温存手術適応の拡大を目指した術前アロマトラーゼ阻害剤併用放射線治療の開発	2
覚道奈津子	32	関西医科大学形成外科学 助教	基底細胞癌におけるKi-67, 表皮成長因子受容体の免疫組織化学的検討	1
神崎 隆	31	大阪府立成人病センター 呼吸器外科 レジデント	肺癌術前縦隔リンパ節転移診断および術後再発の早期発見を目指したFDG-PET/CT検査に関する研究	1
黒川 幸典	37	大阪医療センター外科 医師	GIST患者におけるイマチニブ血中濃度と効果の関連性	2
河本 真大	33	大阪市立大学医学研究科 腫瘍外科大学院生	膵癌に対するラパチニブ+S-1 併用療法	1
後藤 邦仁	38	大阪府立成人病センター 消化器外科 診療主任	インドシアニングリーン(ICG)を用いた肝細胞癌に対する光線温熱療法の新規開発	2
高橋 秀典	38	大阪府立成人病センター 消化器外科 医長	膵がんに対する術前化学放射線療法の効果を早期予測可能とする血中biomarkerの探索	2
田中 晃司	31	大阪府立成人病センター 消化器外科 医員	食道癌手術時における隣接臓器癌浸潤の可視化を目指した術中光線力学診断	1
鼻岡 昇	34	大阪府立成人病センター 消化管内科 レジデント	Helicobacter pylori感染にともなう背景粘膜の変化から見た効率的な胃癌予防法の確立	1
三宅 俊輔	32	大阪医療センター 医療技術部診療放射線技師・医学物理士	骨盤部悪性腫瘍の画像誘導による4次元高線量率小線源治療法の開発	1

【 疫学の部 】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
真鍋 雅史	31	大阪大学大医学系研究科 保健学専攻 特任研究員	がん医療に対する医療経済学的評価方法に関する研究	1

【 看護等の部 】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
横田絵美香	35	大阪府立成人病センター 看護師	プラチナ系製剤とタキサン系製剤による多剤併用がん化学療法を受ける婦人科がん患者の食事対処とその効果	1
市原 香織	38	大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 修士課程1年	日本語版Liverpool Care Pathwayの実施による看取りのケアの検討	1
島 雅晴	31	大阪府立成人病センター 理学療法士	リンパ浮腫に対する集学的治療体系の確立を目指した院内システムの構築	1

平成22年度予算案など承認

理事会・評議員会

大阪対ガン協会は3月18日、大阪市北区中之島の朝日新聞ビル会議室で理事会、評議員会を開き、平成22年度の予算案、同事業計画案を原案通り可決、承認した。

予算額は1571万円。会費と一般寄付金での収入を見込んでいる。支出の主なものは事業費で、学術研究助成費や普及啓発費などに1182万円を計上している。事業計画は、「がん予防と早期治療の啓発」「学術研究への助成」「検診の奨励と援助」「募金活動」の4項目を重点にがん征圧事業を推進。学術研究の助成は、若手の研究者や医療従事者に贈る「ガン研究助成奨励金」を継続するほか、がん対策事業の連携を強めるため研究機関などへの助成、協力金を考慮する。がん征圧への

普及啓発では9月5日に、大阪国際交流センターで「がんセミナー」を開くほか、がん治療や化学療法などの最新情報を専門医がわかりやすく講演、質問にも答える「成人病公開講座」も継続開催する。

会員を対象にしたがん検診は春秋2回呼びかけ、大阪がん予防検診センターと府医師会保健医療センターで実施する予定。

会員のみなさまへ

今年も『がん征圧運動』にご協力を 賛助会員継続・会費納入のお願い

みなさまには、ますますお元気でご活躍のことと存じます。

国の発表によりますと、がんは1981年から死因の第1位を占め、近年、総死亡の3人に1人ががんで亡くなっています。がんによる死亡数は年々増加の傾向にあり、だれもが関わりを持ちうる病、ますます身近な存在になりつつあります。

大阪対ガン協会は、平成22年度も多彩な事業に取り組み、がん征圧運動を活潑に推進してまいります。ご支援、ご援助の継続をお願いいたします。(会長 今岡真義)

これからも、がん征圧運動にご協力いただき

平成22年度も会費を納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、お振り込み手数料につきましては、誠に恐縮に存じますが振り込み者ご負担でお願いいたします。また、少しでも増額いただければ幸いです。

当協会は「特定公益増進法人」の資格を得ています。税法上の扱いとして、個人は「寄付金控除」(5000円を超える場合)、法人は「損金算入」の特典があります。